令和７年度ふるさと保全対策委員会　次　第

開催日時：令和８年２月 16 日（月）
１３：３０～１５：００
会場：新潟県自治会館第１研修室

１　開会あいさつ

２　出席者自己紹介

３　議　事
（１）ふるさと保全基金事業の概要
（２）令和７年度の活動報告
（３）令和８年度の活動計画
（４）棚田県にいがたの取組について

令和7年度 新潟県ふるさと保全対策委員会 出席者名簿

所　　属　・　役　　職	氏　　名
【委　員】	
新潟産業大学経済学部客員講師	春　日　俊　雄
日本自然環境専門学校　校長	五　十　嵐　實
日本航空㈱東北支社新潟支店　副支店長	米　野　健　司
十日町市三ツ山地区代表	大　津　敏　和
トロノキ協議会代表	阿　久　澤　剛　樹
【事務局】	
農村環境課　課長	河　村　智　幸
農村環境課　参事（課長補佐）	堂　馬　彬　史
農村環境課　中山間地域対策推進係　副参事	星　野　綾　子
農村環境課　中山間地域対策推進係　主査	風　間　勇　人
農村環境課　中山間地域対策推進係　主事	平　澤　宥　心

（別紙様式）

中山間ふるさと・水と土保全対策事業
中山間ふるさと・水と土保全推進事業

事 業 実 施 計 画

計画期間：令和３年度～令和７年度

（令和７年度）

計　画　内　容

１．事業実施の基本方針

２．事業計画

３．事業実施の成果目標と実績

４．事業評価と対応

新潟県

１．事業実施の基本方針

目標年度	令和７年度
現状と課題	・本県の中山間地域は県土の約７割、耕地面積の約４割を占めており、水資源のかん養や国土の保全等の多面的機能を有し、下流住民の生活基盤を守るなど重要な役割を果たしている。一方で、生産条件の不利な中山間地域においては、過疎化・高齢化の進行により、農地・農業用施設の維持管理や集落機能の維持が困難な状況となってきており、農村の持つ国土・環境保全などの公益的・多面的機能の低下が懸念されている。
事業実施の基本方針	・本県では「新潟県総合計画～住んでよし、訪れてよしの新潟県～」を策定し、2024年の県施策の目標を示している。本事業では「新潟県総合計画」の政策の柱である「付加価値の高い持続可能な農林水産業の実現」に向け、「中山間地域農業の維持と農山漁村の多面的機能の発揮」に向けた取組を推進する。 ・具体的には、農業・農村の有する多面的機能の良好な発揮と中山間地域等の活性化を図るため、地域住民等による農地等の保全・利活用に係る活動の活性化、都市住民等の保全活動への参加促進、関係人口や交流人口の創出・拡大等に取り組む。
計画後の目指す姿	・地域住民等による農地等の保全活動を通じ、農業・農村の有する多面的機能が維持・発揮される。 ・都市住民等の保全活動への参加促進や交流人口・関係人口の創出・拡大により、中山間地域等が活性化する。

２．事業計画

事業（取組）名	事業（取組）内容	達成すべき目標との関連	事業実施要綱上の該当項目	５ヶ年間の事業（量）内容	総事業費
調査研究事業	土地改良施設及び農地の機能の強化・保全に関する基本的対策、工法等の調査・研究を行う。	①②	ふる水 第3-2-(1)	・毎年度、環境情報協議会を開催し、農業農村整備事業の新規地区の環境配慮内容の審議及び完了地区の事後調査を実施する。 ・「環境にやさしい田園整備新技術創造事業」において、新たな視点から土地改良技術を検証し、新潟発の技術指針の策定を目指し調査研究を行う。 ・「園芸産地化水田フル活用実証事業」において、水田での園芸作物の栽培に適した効果的なかんがい排水技術の確立に向けた実証を行う。（R3年度迄） ・土地改良計画の審査に当たり、専門的知識を有する者による調査を行う。	69,420
研修事業	地域住民活動の活性化に関する推進指導及び助言等を行う人材を育成する。	②③④	ふる水 第3-2-(2)	・全国研修にふるさと水と土指導員を派遣する。（５人以上／５年）	1,050
推進事業	ふるさと保全対策委員会を開催する。	①②③④	ふる水 第3-2-(3)	・事業の実施計画、実施結果等について審議し、有識者の意見を聴取するため、毎年度１回委員会を開催する。	870
	地域住民の意識の向上及び農地や施設の保全・利活用の必要性等を啓発・普及する。	②③④	ふる水 第3-2-(3)	・「新潟の農業農村の歴史探訪・発信事業」において、農業農村やそれを支える土地改良施設の役割・重要性等について情報発信することにより、県民の理解促進を図る。 ・「世界農業遺産情報発信事業」において、佐渡地域が認定されている世界農業遺産の認知度向上と地域活動の維持、向上に資する情報発信を行う。(R3年度) ・「農業遺産推進費」において、世界農業遺産広域連携推進会議等への出席 ・「園芸産地化チャレンジ事業」において、園芸品目導入に向けた普及・啓発を図るため、研修会や検討会の開催、専門家による指導・助言等を行う。 ・地域住民活動の必要性等について、ホームページ、パンフレット、情報誌等の多様な媒体により情報発信する。	39,650
				・市町村、指定棚田地域振興協議会又は地域資源の保全・整備を実践する団体がふるさと水と土指導員と連携して実施する「地域住民活動推進事業」を支援する。(R4年度迄)	4,000
保全ネットワーク・保全活動推進事業	棚田地域における都市住民等の保全活動への参加や住民組織が行う保全活動を推進する。	②③④	棚田 第3-2-(1)(2)	・SDGs活動に取り組む企業やボランティア活動を希望する学生等を「棚田みらい応援団」として募集し、棚田地域の集落とマッチングして、都市住民等の棚田保全活動への参加促進を図る。	11,400
				・棚田地域への地域外からの支援拡大や棚田地域の活性化を図るため、webサイト「にいがた棚田ネット」において、本県の棚田の魅力や保全活動の状況等を広く情報発信する。 ・棚田地域への来訪者増加や支援拡大を図るため、棚田カード、パンフレット等の多様な媒体により情報発信する。	7,900
保全活動支援事業	住民組織が行う棚田地域等の農地や施設の保全・利活用に係る活動を支援する。	②③④	棚田 第3-2-(3)	・棚田地域の農地等が有する多面的機能の良好な発揮と集落活動の活性化を図るため、都市住民等との交流活動を伴う農地等の保全・利活用に係る指定棚田地域振興協議会や集落の活動を支援する。（10地区以上／５年）	13,000

		令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	
中山間ふるさと・水と土保全対策事業（ふる水と土基金）	計画事業費	26,000	26,132	21,720	21,099	20,034	
	（実績見込額）	19,114	13,697	15,658	12,818	19,929	
中山間ふるさと・水と土保全推進事業（棚田基金）	計画事業費	7,400	8,478	5,000	5,321	6,100	
	（実績見込額）	3,504	3,969	2,568	2,615	4,950	

３．事業実施の成果目標と実績

達成すべき目標		指標	基準値（R元）	目標値	年度ごとの実績					達成度
					令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	
①	土地改良施設及び農地の機能の強化・保全に関する調査・研究	取組件数	－	10件以上／５年	6件	7件	7件	7件	7件	達成
②	地域共同による農地等の保全・利活用に係る活動の活性化	地域共同活動による農地・農業用水等の保全面積	124, 475ha	132, 000ha	125, 974ha	125, 868ha	126, 536ha	125, 903ha	126, 486（見込み）	概ね達成
③	都市住民等の保全活動への参加促進	棚田地域等における都市住民等の農地・農業用施設等の保全活動参加延べ人数	1, 645人	1, 810人	1, 154人	1, 663人	2, 100人	2, 120人	1, 947	達成
④	棚田地域における関係人口や交流人口の創出・拡大	棚田等を舞台に都市農村交流に取り組む集落等の取組主体数	57	70	39	52	59	64	54	概ね達成
		（参考指標）棚田等における交流人口等の受入れ人数	11, 552人	11, 840人	7, 201人	9, 298人	18, 940人	23, 302	17, 228	達成

４．事業評価と対応

達成すべき目標		事業実績の評価		備考
		外部有識者の所見	所見を踏まえた改善方針	
①	土地改良施設及び農地の機能の強化・保全に関する調査・研究	・(R3)生きもの調査について、県でデータベースを作り、そのデータベースを地域の魅力としてはどうか。 ・(R3)燃料エネルギーの確保が課題の山間地における自然再生可能エネルギーの導入、CO2を出さない暮らし方など、山間地の新たな魅力となるような調査研究を。	・検討する。 ・「農村地域小水力発電等導入促進事業」により、水路などの維持管理者の節減を目的とした農業水利施設での小水力発電の調査を実施している。	
②	地域共同による農地等の保全・利活用に係る活動の活性化			
③	都市住民等の保全活動への参加促進	・(R3)学生参加の保全活動で、参加地域のレクチャー（地域、特産品などの紹介）を実施するなど、参加者の興味をひく仕組みがあるとよいのでは。 ・(R4)各事業・活動についてコロナ禍後の取り組み体制を強化していく1年としていくための重要な年であろう。再スタートの意識で、ひとつひとつ見直してほしい。まずは、既存の事業を大事に、その継続性を担保しうる体制整備が要点だろう。 ・(R6)中山間地域の問題とかを知ってもらうには、従業員の教育の部分として、研修などで活用してもらうのはこれからとても重要。お米を扱う企業も多くあるわけだから、そういう所に少しでも働きかけて様々な企業へのアプローチへ取り組んで欲しい。	・参加者のより良い体験・経験に繋がる活動地域の事前情報発信を検討する。 ・ご意見いただいた内容を参考にして、今後、事業内容の充実が図られるように検討してまいります。例えば「棚田みらい応援団」は、ご指摘のように重要な年という認識の下、活動回数を5回から17回へと増やすとともに、昨年度までは難しかった交流会等が企画される予定です。多くの参加者の皆さまと地区の皆さまの有意義な意見交換、交流の場になると考えております。 ・令和7年度は新たに5つの企業が棚田みらい応援団、にいがた棚田フォーラムへ登録・参加をしました。その中には県外の企業も含まれ、食品、米を取り扱う企業や情報産業に取り組む企業も含まれています。参加いただく企業・団体の皆さまとともに課題解決に向け事業を進めて参り	
④	棚田地域における関係人口や交流人口の創出・拡大	・(R5)リピーターになって関係人口としてより深く関わる。移住に近づく。そういう人が何人生まれたかという形で目標を立てることが大事。本当の意味での助っ人となる活動が必要。 ・(R5)企業との繋がりをコネクトしていく、企業と地域、中山間地域をつないでいく。いろいろな地域がコンテンツを充実させる。そういうところまで、繋がるようなサポートするような事業が必要。 ・(R6)新潟県を棚田県という名前にすることは大賛成。その中でどうやって棚田をより外へ広げていくかという場合、海外に目を向ける方法がある。国内はもちろん、海外へ向けた取組が必要。 ・(R6)棚田の保全においては文化的な部分も重要だと思う。ツーリズムを通じて地域の関わり、生き方をそこに反映できるようなものを保全活動のインセンティブとして伝えて欲しい。	・令和7年度より個人での草刈りなどのハードワークを含めた活動を実施することで、より地域へ深く関わることのできる活動を行います。 ・地域と企業が共に連携する場が持てるよう、ただの保全活動にとどまらず、その後の意見交換の場として庁内外を含めたキックオフミーティングを実施します。 　数回の意見交換等を踏まえ、どのような連携ができるか具体的な案を詰めていきます。 ・令和8年度は外国人がコンテンツとして棚田をどう感じるのか？棚田の保全活動体験を通じてインバウンドの受入れの可能性を検証する事業に取り組むんで参ります。 ・また、この事業を通じて保全活動だけでなく棚田の生まれた背景やそれに関わる歴史・文化、地域の方々との交流を通じた生き方などを学べる機会を盛り込んでいきたいと考えています。	

令和7年度 調査研究事業の活動実績

事　　業　　名	内　　容	
環境情報協議会	環境情報協議会を年３回（７月、11月、２月）開催し、農業農村整備事業の新規地区の環境配慮内容及び完了地区の事業調査結果について有識者から指導・助言を仰いだ。	
環境にやさしい田園整備新技術創造事業	Ｒ７年度は以下のテーマについて調査研究を実施。「環境にやさしい田園整備新技術アドバイザー会議」（７月と３月予定）で実施状況について報告し、有識者から指導・助言をいただいた。	
	農業用ポンプの状態監視 （H29年度～Ｒ７年度）	（目的）農業用ポンプの状態監視を行うことで、甚大な突発事故の発生前に異常を検知する手法を検討するもの （Ｒ７調査内容）振動調査、赤外線応力計測調査、データ収集分析、とりまとめ
	閉塞しにくい集水管の実証実験 （Ｒ４年度～Ｒ７年度）	（目的）水抜きボーリングの目詰まりの発生を抑制するため、効率的で安価な対策工法を検討するもの （Ｒ７調査内容）現地調査、データ収集、分析、とりまとめ
	農業農村整備が発揮する流域治水効果の可視化手法の確立 （Ｒ７年度～Ｒ10年度）	（目的）排水系統に連なる農業用排水施設や田んぼダム流域治水効果を可視化するもの （Ｒ７調査内容）データ収集
	ほ場整備の効果検証 （Ｒ７年度～Ｒ９年度）	（目的）ほ場整備事業完了後の事業効果や営農状況等の事業効果を検証するもの （Ｒ７調査内容）地区選定
事業計画審査透明性推進事業	県営土地改良事業を開始する際、事業計画に関して専門的な知見を有する者に調査を委嘱のうえ意見を徴した。 （令和７年度における実施対象事業地区は16地区（見込み））	
件数		**7件**

令和７年度の研修事業の実施状況

〇ふるさと水と土基金全国研修会〈農林水産省〉

「農業･農村の多面的機能の持続的発揮に向けたシンポジウム等」を「ふるさと水と土基金全国研修会」として開催

令和７年 10 月 21 日（火）イイノホール&カンファレンスセンター（東京都千代田区）で会場参加とWeb 参加のハイブリッド開催。

市町村を通じて開催案内を周知。

基調講演「多面活動の未来像 ～活動組織に期待すること～」
講師：農林水産省農村振興局次長 青山 健治 氏
講演①「TANOPO」運営：栃木県農地水多面的機能保全推進協議会
講師：栃木県土地改良事業団体連合会事業部情報管理課主幹 植木 美穂 氏
講演②「むらマッチ」運営：静岡県
講師：静岡県経済産業部農地局農地保全課農村振興班
講演③「しまっち」運営：島根県
講師：公益財団法人ふるさと島根定住財団地域活動支援課長 原 早紀子 氏
講演④「グリーンネットさばえ」活動組織の紹介
講師：グリーンネットさばえ事務局長 堀 克行 氏
講演⑤「とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊」運営：徳島県
講師：徳島県農林水産部農山漁村振興課振興・創生担当係長 犬伏 要輔 氏
講演⑥「三重のふるさと応援カンパニー推進事業」運営：三重県
講師：三重県農林水産部農山漁村づくり課農山漁村活性化班係長 浦田 素子 氏
講演⑦「待矢場太田広域協定運営委員会」
講師：待矢場両堰土地改良区管理課長 飯塚 則幸 氏
パネルディスカッション
「活動組織の体制強化に向けたマッチングの仕組みの構築に向けて」
コーディネーター：
特定非営利活動法人みんなの集落研究所首席研究員 阿部 典子 氏

〇全国棚田（千枚田）サミット〈全国棚田（千枚田）連絡協議会〉

令和７年 11 月１日（土）２日（日）大分県別府市開催

市町村を通じて開催案内を周知。県として１名参加。

次回は令和８年静岡県浜松市で開催予定。

サミットテーマ 「棚田でウエル 想いと願いをコメて」
事例発表 『内成棚田の保全維持活動について』
（稲倉の棚田保全委員会 委員長 久保田 良和氏）
第 1 分科会 棚田ツーリズムの未来形～観光・健康・地域再生をつなぐ～
第 2 分科会 石垣の記憶、内成の現在 ～棚田から読み解く別府の景観史～
第 3 分科会 農村と都市をつなぐ“おいしい交流”～棚田の風景を味に変える～
第 4 分科会 スマート農業で次世代に残したい農の豊かさ
翌日、現地見学会が開催。

〈ふるさと水と土指導員とは〉

土地改良施設及びこれと一体的に保全すべき農地が有する多面的な機能の良好な発揮と利活用に係る地域住民活動に必要な助言・指導を行う地域におけるリーダーとして、市町村の推薦に基づき、県からの依頼を受けて、基金を設置した市町村に設置。

(令和７年度)

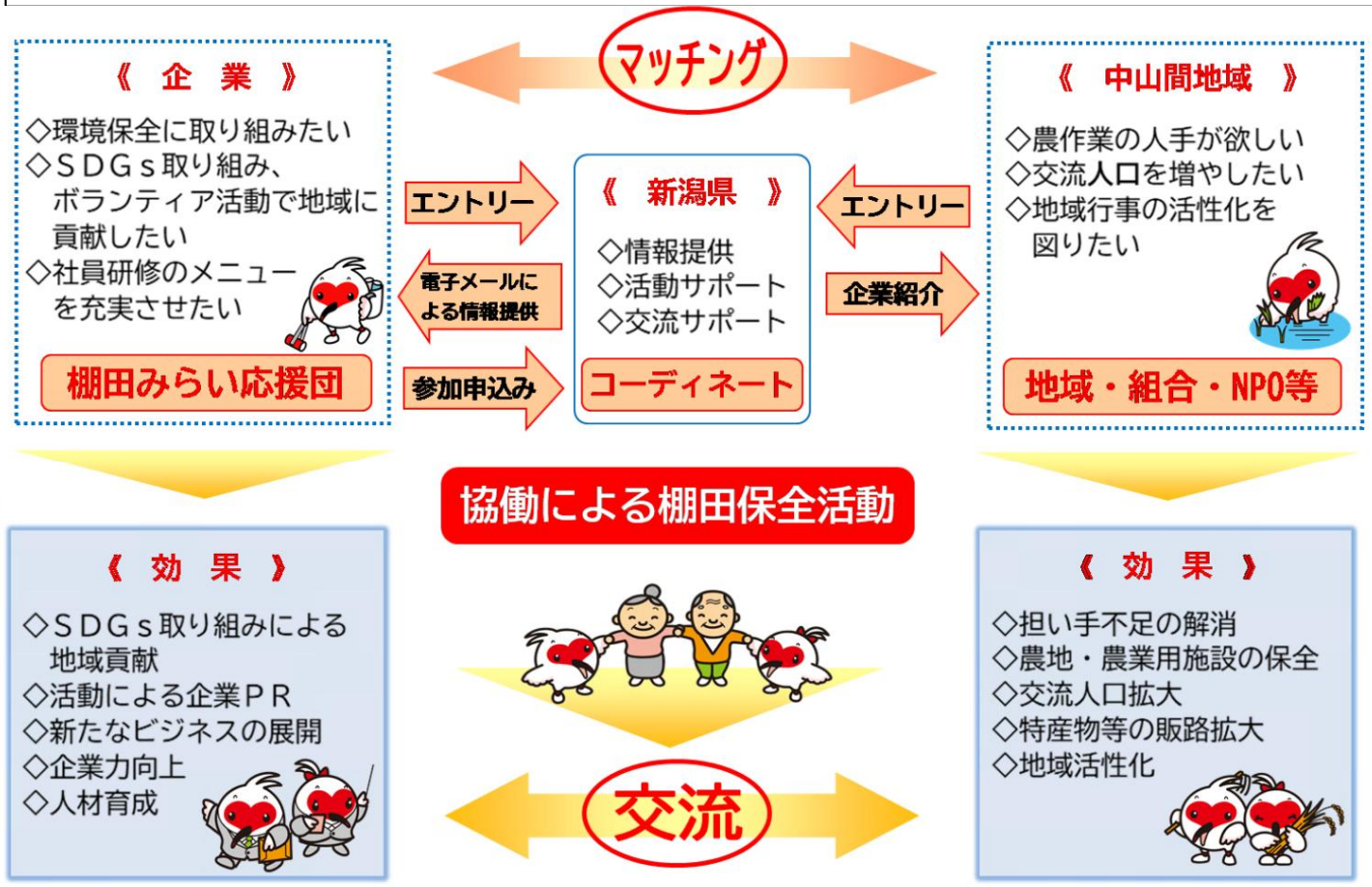
阿賀町（１）、見附市(１)、上越市（１）、妙高市（１）、糸井川市（１）

令和7年度推進事業の活動実績

事　　業　　名	内　　容
新潟県農業農村の歴史探訪・発信事業	農業農村やそれを支える土地改良施設の役割・重要性について情報発信し、県民の理解促進を図った。 小学生等を対象に農業水利施設見学など基本的な広報に取り組んだ。（見込） ・現地見学会（10回）生きもの調査（４回）出前講座（５回）展示ＰＲ（11回） 現地見学会 生きもの調査 出前講座 ホームページやラジオ等による発信の他、ＳＮＳなどの多様な媒体の活用により情報発信を実施した。 ・ホームページ掲載 ・農地部公式インスタグラムの情報発信
農業遺産推進費	・世界農業遺産広域連携推進会議等への出席。 （令和７年度、第１回は書面にて行われた。第２回は令和７年10月23日に行われ、当県はオンラインにて参加。） ・「ジーニアス農業遺産ふーどコンテスト」への参加周知を実施 ・ホームページ掲載のほか、農地部公式インスタグラムにて情報発信。
園芸産地化チャレンジ事業	園芸品目導入に向けた普及・啓発を図るため、県内２か所で現地研修会を、20地区で試験栽培を実施した。

棚田みらい応援団の概要

【活動の背景】
○　中山間地域では、過疎・高齢化により農業の担い手不足や地域活力の低下が懸念。
○　ISO26000（社会的責任に関する国際規格）や環境保全活動の取組など、企業のSDGsやボランティア活動に対する関心の高まり。
○　企業や大学、ボランティアと支援を求める中山間地域の集落をマッチングし、棚田での協働作業等を通じて都市と農村の交流を促進し、棚田の保全と地域の活性化を図る。



【参加者の声】
○のんびりとした棚田で作業は、心も落ち着き、大変気持ちがよかったです。
○子供にも農作業を体験させることができ有意義です。
○日ごろ経験できない活動を通じてお米の大切さを実感した。これで終わりでなく、今後も活動を続けていきたい。
○自然が好きなので自分の勉強も兼ねて毎回参加しています。受け入れてくださる集落の方々も優しくてとても嬉しいです。

【地元の声】
○人手が多くて助かった。来ていただいた皆様に感謝したい。
○コミュニケーションをとりながら皆でやる農作業は楽しく、これが農村の本来の姿だと感じた。
○集落は高齢化が深刻な問題ですが、この活動を通じ元気をもらえる。

＜棚田みらい応援団の活動状況＞

○　棚田みらい応援団は、平成21年度から活動を開始、これまで27企業、5大学・専門学校、2団体が活動に参加。
○　令和７年度は26地区、延べ1,536人が活動に参加。参加地区、参加者ともに増えることとなった。引き続き棚田みらい応援団の活動を推進。

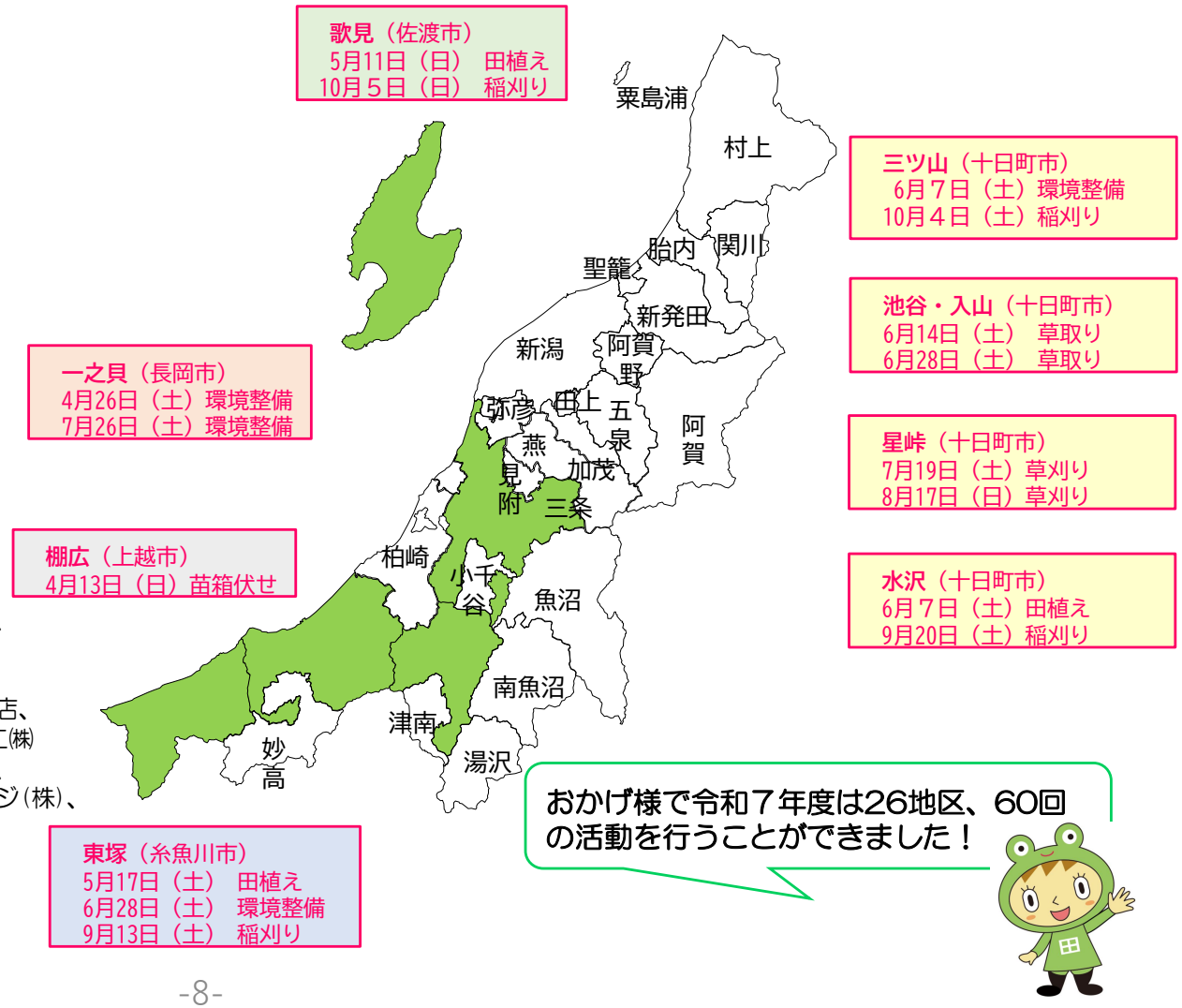
●活動参加者数の推移

年度	延べ参加者数	活動回数
R2年度	937人	35回
R3年度	932人	43回
R4年度	1,334人	45回
R5年度	1,767人	64回
R6年度	1,800人	64回
R7年度	1,536人	60回

●令和７年度の参加団体

加賀の井酒造㈱、佐渡汽船㈱、佐渡測量㈱、サンワコン新潟支店、
相互技術㈱、東京電力ホールディングス㈱新潟本社、㈱ドコモＣＳ、
㈱ナカノアイシステム、㈱ナルサワコンサルタント、
新潟空港ビルディング㈱、新潟食料農業大学、日本航空㈱新潟支店、
新潟大学むらづくり応援隊、、東日本旅客鉄道㈱新潟支店、藤木鉄工㈱
三井住友海上エージェンシーサービス㈱、㈱水倉組、えびがせ荘、
Lily&Marry's、明和工業㈱、マルハニチロ㈱、TOPPANエッジ㈱、
ECHIGO棚田サポーター

●令和７年度の活動ＭＡＰ（主なもの）



令和7年度　棚田みらい応援団　活動実績

地　区	市町村	開催日	内　容	参集団体
歌見	佐渡市	5月11日（日）	田植え	佐渡汽船㈱、東日本旅客鉄道株式会社新潟支社、 日本航空㈱新潟支店、佐渡測量㈱、 三井住友海上エイジェンシー・サービス㈱
		10月5日（日）	稲刈り	佐渡汽船㈱、東日本旅客鉄道株式会社新潟支社、 日本航空㈱新潟支店、佐渡測量㈱、TOPPANエッジ㈱ 三井住友海上エイジェンシー・サービス㈱
東塚	糸魚川市	5月17日（土）	田植え	新潟食料農業大学、えびがせ荘、㈱ナルサワコンサルタント、 加賀の井酒造、糸魚川市土地改良区、 糸魚川市、糸魚川地域振興局
		6月28日（土）	環境整備	新潟食料農業大学、㈱ナルサワコンサルタント、相互技術㈱
		9月13日（土）	稲刈り	えびがせ荘、㈱ナルサワコンサルタント、新潟食料農業大学 東京電力ホールディングス（株）新潟本社
棚広	上越市	4月13日（日）	苗箱伏せ他	日本航空㈱新潟支店、水倉組、 三井住友海上エイジェンシー・サービス株式会社
三ツ山	十日町市	6月7日（土）	環境整備	㈱水倉組、明和工業㈱、㈱ナルサワコンサルタント
		10月4日（土）	稲刈り	東京電力ホールディングス（株）新潟本社、 新潟大学むらづくり応援団、水倉組、Lily&Marry's
池谷・入山	十日町市	6月14日（土）	草取り	ドコモCS、新潟大学むらづくり応援団
		6月21日（土）	草取り（中止）	
		6月28日（土）	草取り	新潟大学むらづくり研究会
水沢	十日町市	6月7日（土）	田植え	東京電力ホールディングス㈱新潟本社(5)、㈱サンワコン（4）、 新潟大学むらづくり研究会（8）、新潟空港ビルディング㈱（3）
		9月20日（土）	稲刈り	東京電力ホールディングス㈱新潟本社、㈱サンワコン、 ㈱ナルサワコンサルタント、マルハニチロ㈱ 新潟空港ビルディング㈱、水倉組、藤本鉄工
星峠	十日町市	7月19日（土）	草刈り	日本航空㈱、水倉組、魚沼地域振興局、 東北発電工業㈱、新潟県庁、魚沼わたなべ農園、 新潟空港整備事業所、他5名個人参加
		8月17日（日）	草刈り	㈱ナルサワコンサルタント、水倉組、新潟県庁、 十日町地域振興局、糸魚川地域振興局、相互技術㈱、 ㈱越後交通鉄工所、日本航空㈱、 （福）特別養護老人ホーム昴、　他4名個人参加
荻ノ島	柏崎市	6月15日（日）	環境整備（中止）	
		11月9日（日）	環境整備（中止）	
一之貝	長岡市	4月26日（土）	環境整備	新潟大学むらづくり研究会、㈱ナカノアイシステム、 東京電力ホールディングス㈱新潟本社
		7月26日（土）	環境整備	新潟大学むらづくり研究会、東京電力ホールディングス㈱新潟本社
須巻	胎内市	4月～11月 （全44回活動）	草刈り、江ざらい等	ECHIGO棚田サポーター
下荒沢				
大長谷				
坂井				
池谷	長岡市			
大野	柏崎市			
大芋川	魚沼市			
三ッ山	十日町市			
枯木又				
浦田				
星峠				
不動	上越市			
川谷				
村屋				
筒方				
岩神				
泉				
高尾				
小倉	佐渡市			
岩根沢				

棚田の魅力や保全活動の情報発信①

県民だより令和７年秋号への掲載
（令和7年10月13日発行）

○「棚田、日本一。原風景を未来につなぐ」をテーマに、棚田の役割や棚田の保全活動に携わっている方々のメッセージ、そして「にいがた棚田みらい元年」の取組について紹介。

佐渡みらい共生会議への参加

○【場所】令和７年１０月２５日
【時期】あいぽーと佐渡

○　佐渡島で自然環境の保全や自然資源の活用に取り組む島内外の人びとが一堂に会して行う情報交換会へ参加。「棚田みらい応援団」の紹介などを実施。

農業農村工学会京都支部研究発表会
「にいがた棚田みらい元年」の取組を紹介

○　令和７年11月18日に開催された、農業農村工学会京都支部研究発表会において、「にいがた棚田みらい元年」の取組を紹介し、約40名が聴講。

○　会場からは、棚田の取組を推進するにあたっての自治体や地域の受け止めや、各種イベントの実施主体に関する質問が寄せられた。

新潟食料農業大学PRコーナー

○　新潟食料農業大学胎内キャンパス
【時期】通年
【内容】新潟食料農業大学の協力を得て、胎内キャンパスA棟ロビー正面にPRコーナーを設置。学生や大学への来訪者へ棚田の情報を提供。

棚田の魅力や保全活動の情報発信②

新潟ゆかり在京メディアの会
（令和7年11月13日）

○　昨年度に引き続き、首都圏メディアの新潟勤務経験者を対象とした「新潟ゆかりの在京メディアの会において」、本県旬の情報として「棚田県にいがた」の取組をPR。

新潟ふるさと村における情報発信
（令和7年12月11日～令和8年1月5日ほか）

○　道の駅「新潟ふるさと村」の一部区画で「棚田県にいがたフォトコンテスト」の応募作品142点を展示。

○　観光入込客数が150万人を超える「新潟ふるさと村」での展示を行うことで、県内外の多くの方に向け棚田の魅力を発信。

県政ナビ＆新測協だより

○令和８年８月10日（日）放送の「県政ナビ」で取組を紹介
○令和９年１月15日（木）発行の「新測協だより」ホット情報コーナーに掲載

新潟空港＆イオンPRコーナー

○　新潟空港「米（まい）まいテラス」
【時期】通年
【内容】新潟空港ターミナルビル３階の一部区画にオープンした公共スペース「米（まい）まいテラス」にて新潟の棚田PRコーナーを設置。令和７年度も引き続き情報発信を実施している。

○　県内外のイオンにて新潟の棚田のPRコーナーを設置し、情報発信を行った。
・イオン亀田新潟インター
令和７年　７月３０日～令和７年８月３日
令和７年１２月６日～令和７年１２月７日
・イオンレイクタウン
令和７年　７月３０日～令和７年８月３日

「米（まい）テラス」

棚田の魅力や保全活動の情報発信③

棚田関連キャラクターに関する商標登録）

○ 令和７年度の「にいがた棚田みらい元年」の活動や「棚田みらい応援団」の取組推進のための応援や、棚田地域と歴史・文化、そして温泉や日本酒などの本県の魅力を分かり易く伝えるためのツールとして、「棚田みらいちゃん」とのコラボキャラクター「棚田県知事　棚田ひでよ」を考案。

○ 棚田地域活性化に資する取組に利用し、親しまれるキャラクターとして位置付けて、県の事業等での使用を想定。

○ 「棚田県知事　棚田ひでよ」、「棚田みらいちゃん」、「棚田県にいがた」の商標登録を申請中。

棚田県にいがた

「棚田県知事　棚田ひでよ」
・「棚田みらいちゃん」の親戚のおじさんで「棚田県」の知事として、「棚田みらいちゃん」
　とコラボで『棚田県』のＰＲ活動を行っている。

「棚田みらいちゃん」
・　蛙の格好をして各地の棚田で活動中。おてんばで、おませな小学３年生（９歳）
　という設定だが、本気モードになると「ガチみらいちゃん」に変身（20歳）する。

新潟県のご当地キャラクター
に年賀状を送ろう！へ参加

○今年度より日本郵政グループの実施する「新潟県のご当地キャラクターに年賀状を送ろう！」へ棚田みらいちゃんが初参加

○全国各地から50枚を越える年賀状が届きました。

棚田地域保全対策事業の紹介

○ 棚田地域保全対策事業とは

中山間・棚田地域の農地や土地改良施設等がもつ多面的機能の発揮や集落活動の活性化を図るため、都市交流を伴って行う農地等の利活用や保全整備を目的とする事業

【事業要件】
- 主傾斜1／20以上の農地面積が地域内の全農地面積の1／2以上の地域でかつ、当該地域の活性化や継続的な保全活動が期待できる地域
- 市町村又は指定棚田地域振興協議会が実施主体となって行う棚田保全活動を行う集落を支援すること

○ 棚田地域保全対策事業の内容

◎地域外住民と行う棚田保全活動
- 敷砂利、草刈り等の農道保全活動
- 水路補修や泥上げ等の水路保全活動
- ため池の土砂上げ、取水施設補修、周辺整備等の水源保全活動
- 土留め、草刈り等の法面保全活動
- 上記の活動を実施するための計画策定や広報、交流支援人材育成等の準備活動

※ 安全管理や専門技術の必要性等から、地域外住民との共同活動に資材の調達や専門業者等への委託等が含まれている場合は委託等を含めた活動の全体を対象とすることができる。

【補助金交付額】
事業経費の1／2（千円未満切捨て）※ただし補助金交付額の上限は50万円とする。

○ 棚田地域保全対策事業の活用例

①ソフト事業例
- 農道草刈ボランティア開催
- 小中学校と連携した農道及び通学路景観整備
- ベンチフリューム設置ボランティア活動費（安全指導員費用等）
- U・Iターン人材及びボランティア募集パンフレット作成
- 首都圏向けPRイベント実施

②ソフト事業＋ハード事業
- 耕作放棄地への景観作物の植栽
- 草刈りボランティア＋倒木処理（業者委託）
- 小・中学校と連携した農道及び通学路への景観作物植栽活動
- 水路清掃ボランティア募集＋ボランティア活動＋案内看板設置
- ため池周辺の景観作物植栽＋ため池補修（業者委託）＋安全柵設置
- 農道砂利敷＋砂利資材調達＋棚田ボランティア団体（棚田サポーター等）活動費

棚田地域保全対策事業
地域住民活動推進事業　実績
（過去３か年）

実施年度	実施主体	事業内容
５	糸魚川市	地域住民による用水路の補修
５	糸魚川市	地域住民によるため池の保全活動
５	十日町市	地域住民による草刈り等
６	十日町市	地域住民による草刈り等
７	佐渡市	地域外住民と行う棚田保全活動
７	佐渡市	地域住民による草刈り等
７	佐渡市	保全ボランティアの募集

棚田を核とした地域振興活動の推進～棚田地域振興法～

○　棚田は、多面にわたる機能を有する貴重な財産であるが、地形的に生産条件が厳しいことから、人口減少や高齢化による担い手不足によって、全国各地で荒廃の危機に直面している状況。
○　このような現状を受けて、農業のみに着目した棚田の維持には限界があることを踏まえ、棚田を核とした 地域振興を通じ、棚田を将来に継承していく考えのもと、令和元年８月に「棚田地域振興法」が施行。
○　多様な主体が参画する地域協議会による棚田を核とした地域振興の取組を関係府省庁横断で総合的に支援する枠組みが構築。
○　時限立法である棚田地域振興法は５年の期限をむかえ、令和７年３月３１日に失効したが、一部改正され、令和１２年３月３１日まで延長された。それに伴い、各協議会により新たな計画変更を実施した。

棚田地域振興法の概要

○ 目　的　　貴重な国民財産である棚田を保全し、棚田地域の有する多面にわたる機能の維持増進を図り、もって棚田地域の持続的発展及び国民生活の安定向上に寄与することを目的とする。

○ 国等責務　【　　国　　】棚田地域の振興に関する施策を総合的に策定・実施
【地方公共団体】棚田地域の振興に関し、国との連携を図りつつ、その地域の特性に応じた施策を策定・実施

○ 役　割

【国】
○棚田地域の振興に関する基本方針の策定
○「指定棚田地域」の指定
（申請者：都道府県）
○「指定棚田地域振興活動計画」の認定
（申請者：市町村）

【県】
○新潟県棚田地域振興計画の策定
（令和2年3月）
○「指定棚田地域」の申請
※市町村等の提案を受けて県が申請

【市町村】
○指定棚田地域振興協議会の設置
（構成員：市町村、活動参加者(農業者、農業団体、地域住民、NPO等）
○「指定棚田地域振興活動計画」の策定
※県と事前協議が必要。県を経由して国へ申請

棚田地域の要件

棚田（勾配1/20以上）が1ha以上存在する昭和25年2月1日の市町村（旧市町村）の区域

支援措置

○「指定棚田地域振興活動計画」に基づく活動に対して、国が財政上又は税制上の措置を実施

（具体例）・中山間直払の加算措置
・補助事業の優先採択、補助率の嵩上げ、採択要件緩和の対象としている条件不利地域に指定棚田地域を追加等

（別紙様式）

中山間ふるさと・水と土保全対策事業
中山間ふるさと・水と土保全推進事業

事 業 実 施 計 画（案）

計画期間：令和８年度～令和１２年度

（令和８年度）

計　画　内　容

１．事業実施の基本方針
２．事業計画
３．事業実施の成果目標と実績
４．事業評価と対応

新潟県

１．事業実施の基本方針

目標年度	令和12年度
現状と課題	・本県の中山間地域は県土の約７割、耕地面積の約４割を占めており、水資源のかん養や国土の保全、生物多様性保全等の多面的機能を有し、下流住民の生活基盤を守るなど重要な役割を果たしている。一方で、生産条件の不利な中山間地域においては、過疎化・高齢化の進行により、農地・農業用施設の維持管理や集落機能の維持が困難な状況となってきており、農村の持つ国土・環境保全などの公益的・多面的機能の低下が懸念されている。
事業実施の基本方針	・本県では「新潟県総合計画～住んでよし、訪れてよしの新潟県～」を策定し、2024年の県施策の目標を示している。本事業では「新潟県総合計画」の政策の柱である「付加価値の高い持続可能な農林水産業の実現」に向け、「中山間地域農業の維持と農山漁村の多面的機能の発揮」に向けた取組を推進する。 ・具体的には、農業・農村の有する多面的機能の良好な発揮と中山間地域等の活性化を図るため、地域住民等による農地等の保全・利活用に係る活動の活性化、都市住民等の保全活動への参加促進、関係人口や交流人口の創出・拡大等に取り組む。
計画後の目指す姿	・地域住民等による農地等の保全活動を通じ、農業・農村の有する多面的機能が維持・発揮される。 ・都市住民等の保全活動への参加促進や交流人口・関係人口の創出・拡大により、中山間地域等が活性化する。

２．事業計画

事業（取組）名	事業（取組）内容	達成すべき目標との関連	事業実施要綱上の該当項目	５ヶ年間の事業（量）内容	総事業費
調査研究事業	土地改良施設及び農地の機能の強化・保全に関する基本的対策、工法等の調査・研究を行う。	①②	ふる水 第3-2-(1)	・毎年度、環境情報協議会を開催し、農業農村整備事業の新規地区の環境配慮内容の審議及び完了地区の事後調査を実施する。 ・「環境にやさしい田園整備新技術創造事業」において、新たな視点から土地改良技術を検証し、新潟発の技術指針の策定を目指し調査研究を行う。 ・土地改良計画の審査に当たり、専門的知識を有する者による調査を行う。	66,355
研修事業	地域住民活動の活性化に関する推進指導及び助言等を行う人材を育成する。	②③④	ふる水 第3-2-(2)	・全国研修にふるさと水と土指導員を派遣する。（５人以上／５年）	230
推進事業	ふるさと保全対策委員会を開催する。	①②③④	ふる水 第3-2-(3)	・事業の実施計画、実施結果等について審議し、有識者の意見を聴取するため、毎年度１回委員会を開催する。	875
	地域住民の意識の向上及び農地や施設の保全・利活用の必要性等を啓発・普及する。	②③④	ふる水 第3-2-(3)	・「新潟の農業農村の歴史探訪・発信事業」において、農業農村やそれを支える土地改良施設の役割・重要性等について情報発信することにより、県民の理解促進を図る。 ・「世界農業遺産情報発信事業」において、佐渡地域が認定されている世界農業遺産の認知度向上と地域活動の維持、向上に資する情報発信を行う。(R3年度) ・「農業遺産推進費」において、世界農業遺産広域連携推進会議等への出席 ・「園芸産地化チャレンジ事業」において、園芸品目導入に向けた普及・啓発を図るため、研修会や検討会の開催、専門家による指導・助言等を行う。 ・地域住民活動の必要性等について、ホームページ、パンフレット、情報誌等の多様な媒体により情報発信する。	35,285
保全ネットワーク・保全活動推進事業	棚田地域における都市住民等の保全活動への参加や住民組織が行う保全活動を推進する。	②③④	棚田 第3-2-(1)(2)	・SDGS活動に取り組む企業やボランティア活動を希望する学生等を「棚田みらい応援団」として募集し、棚田地域の集落とマッチングして、都市住民等の棚田保全活動を通じてグリーンインフラの推進を図る。	19,140
保全活動支援事業	住民組織が行う棚田地域等の農地や施設の保全・利活用に係る活動を支援する。	②③④	棚田 第3-2-(3)	・棚田地域の農地等が有する多面的機能の良好な発揮と集落活動の活性化を図るため、都市住民等との交流活動を伴う農地等の保全・利活用に係る指定棚田地域振興協議会や集落の活動を支援する。（10地区以上／５年）	15,000

		令和８年度	令和９年度	令和１０年度	令和１１年度	令和１２年度	
中山間ふるさと・水と土保全対策事業（ふる水と土基金）	計画事業費	20,549					
	（実績見込額）						
中山間ふるさと・水と土保全推進事業（棚田基金）	計画事業費	6,828					
	（実績見込額）						

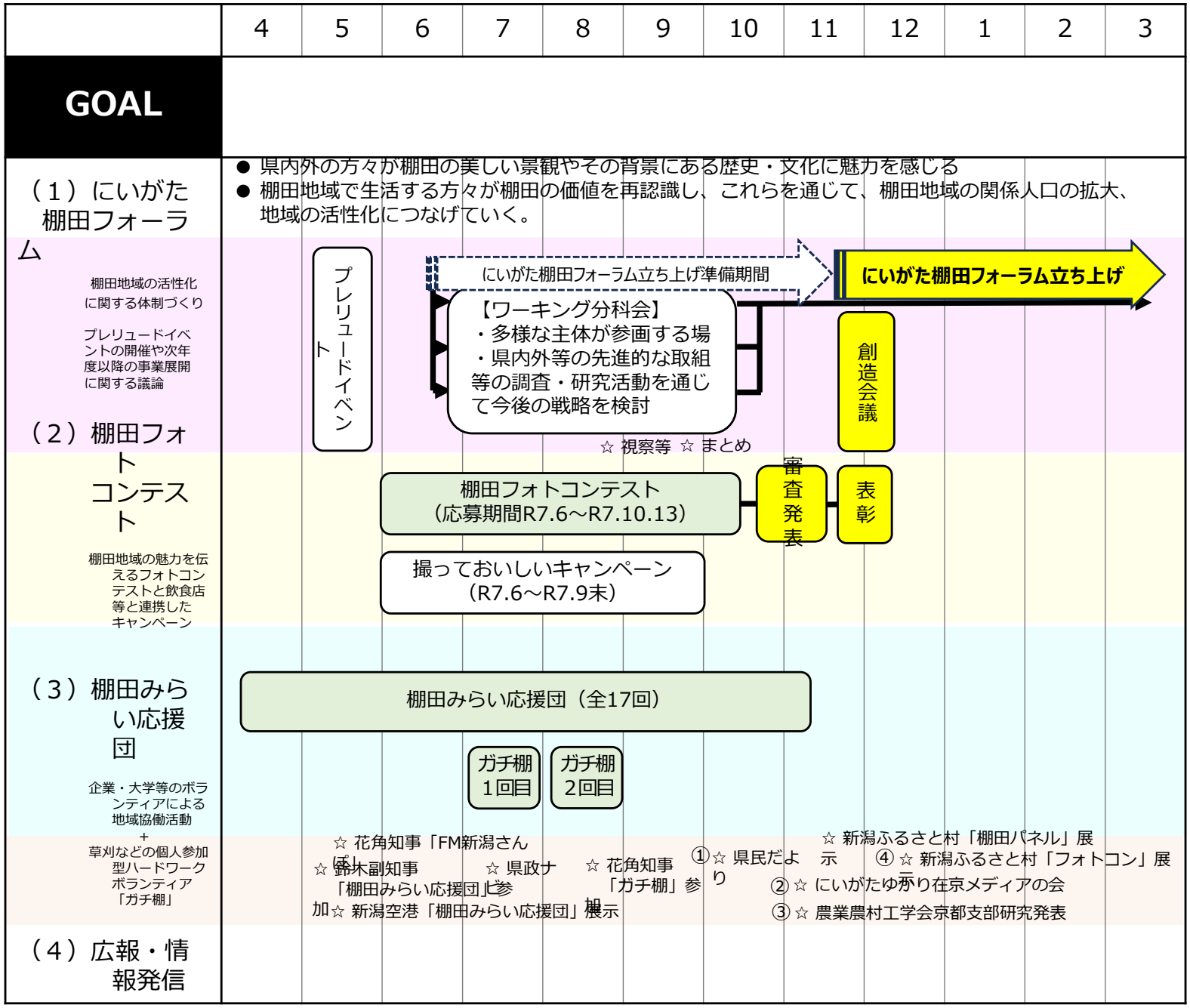
３．事業実施の成果目標と実績

達成すべき目標		指標	基準値（R7）	目標値	年度ごとの実績					達成度
					令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	
①	土地改良施設及び農地の機能の強化・保全に関する調査・研究	取組件数	7件	15件以上/５年						
②	地域共同による農地等の保全・利活用に係る活動の活性化	地域共同活動による農地・農業用水等の保全面積	125,703ha	130,500ha	目標値　県総合計画　成果目標（R14） ※多面的機能支払制度（農地維持支払）の認定農用地面積					
③	都市住民等の保全活動への参加促進	棚田地域等における都市住民等の農地・農業用施設等の保全活動参加延べ人数	1,947人	2,142人	目標値　現状＋10%　【R7年度 農村環境課調べ(一部、関係市町村への聞き取り調査を含む)】 ※「棚田みらい応援団」の参加者む ・棚田サポーター参加者増					
④	棚田地域における関係人口や交流人口の創出･拡大	棚田等を舞台に都市農村交流に取り組む集落等の取組主体数	54	64	目標値　現状＋10主体【R7年度 農村環境課調べ(関係市町村への聞き取り調査)】 ※棚田オーナー制度、棚田を舞台・テーマとしたイベント、都市住民等との交流活動等（保全活動の受け入れは除く）に取り組む主体数					
		（参考指標） 棚田等における交流人口等の受入れ人数	17,288	17,720	目標値　現状＋2.5%　【R7年度 農村環境課調べ(関係市町村への聞き取り調査)】 ※上記の取組（保全活動の受け入れは除く）による交流人口等の受け入れ人数。					

４．事業評価と対応

達成すべき目標		事業実績の評価		備考
		外部有識者の所見	所見を踏まえた改善方針	
①	土地改良施設及び農地の機能の強化・保全に関する調査・研究			
②	地域共同による農地等の保全・利活用に係る活動の活性化			
③	都市住民等の保全活動への参加促進			
④	棚田地域における関係人口や交流人口の創出･拡大			

令和７年度「にいがた棚田みらい元年」の取組



にいがた棚田フォーラムプレリュードイベント

○ 世界農業遺産と世界文化遺産の２つの世界遺産をもつ佐渡市で「棚田みらい元年」が幕開け
○ 産官学それぞれの分野の方が、地域活性化に向けた棚田の魅力や連携可能性をテーマにディスカッション
○ 会場には地元選出の中川県議、北県議にもお越しいただき、100名を超える多くの方々が来場。お楽しみ広場では佐渡総合高等学校の生徒による手作りジャムの販売やパネル展示等、「にいがた棚田フォーラム」の立ち上げに向けた一体感を構築。

ディスカッションの様子

農林水産省山本審議官基調講演

佐渡総合高等学校生徒による出店

棚田みらいちゃんぬりえコーナー

棚田県にいがたフォトコンテスト

○ 美しい棚田の景観や地域の新たな魅力を発信し、棚田振興への関心を高めることを目的に、棚田を主体とした風景や人々の活動の様子等をテーマとした「棚田県にいがた フォトコンテスト」を開催中。
○ 併せて、フォトコンテストに応募した者が、飲食店で簡易なサービスを受けられる「撮っておいしいキャンペーン」を展開。

●撮っておいしいキャンペーン

ステップ１
出会った棚田や見つけた魅力を撮る

ステップ２
お腹が空いたら加盟店を探す

ステップ３
サービスを受ける

ステップ４
フォトコン応募をお店の人に見せる

ステップ５
満喫する

棚田県にいがたフォトコンテスト（みらい創造会議で表彰式）

○ 美しい棚田の景観や地域の新たな魅力を発信し、棚田振興への関心を高めることを目的に、棚田を主体とした風景や人々の活動の様子等をテーマとした「棚田県にいがた フォトコンテスト」を開催。
○ 県内外から142点の応募総数があり、各受賞作品については「にいがた棚田みらい創造会議」で表彰した他、会場内にはすべての作品を展示し、それぞれの視点で新潟の棚田の魅力を発信した。

「棚田県にいがたフォトコンテスト受賞作品」　応募総数142点（応募者数94名）

●FC越後妻有三井選手による授賞式

棚田地域賞（星峠宿　CHAYA氏）

棚田いきもの賞（穴澤　篤氏）

棚田地域賞

タイトル：星峠の朝　2025夏
撮影地　：星峠の棚田（十日町市）
撮影者　：星峠宿　CHAYA

こどもみらい賞

タイトル：楽しいな
撮影地　：小倉千枚田（佐渡市）
撮影者　：中村正樹

棚田いきもの賞

タイトル：朝霧
撮影地　：星峠の棚田（十日町市）
撮影者　：穴澤　篤

●撮っておいしいキャンペーン

棚田みらい応援団の新たな展開　ハードワーク系ボランティア「ガチ棚」

○ 参加企業や団体からの「もっとハードな活動をしたい。」等との声を受け、新たな展開として、ハードワークに特化した「ガチ棚」を創設。
○ 十日町市「星峠の棚田」において、７月及び８月に草刈り機を使用した草刈り作業を実施。

参加者からの声
田植えや稲刈り以外の作業も
地域の人と一緒に汗を流したい！

令和7年度
「ガチ棚」創設

棚田県にいがたフォトコンテスト

棚田みらい元年「ガチ棚」

（令和７年７月19日、８月17日
十日町市星峠の棚田）

ハードワーク系ボランティア「ガチ棚」の実施

○ 初心者コース、ベテラン（経験者）コースに分かれて作業を実施。
○ 初心者の方は、安全講習を受講の上、作業に従事。
○ それぞれのペースで適宜休憩を挟みつつ、約２時間、草刈り作業を実施。

初心者コース　作業前

初心者コース　作業後

参加者からの声

- **楽しいうえに、少しでも役に立てると嬉しい**
- **棚田農家の苦労、お米のありがたさを感じた**
- **棚田を守っていくには多くのサポートが必要不可欠と感じた**

情報発信に向けた取組（棚田関連キャラクターに関する商標登録）

○ 令和７年度の「にいがた棚田みらい元年」の活動や「棚田みらい応援団」の取組推進のための応援や、棚田地域と歴史・文化、そして温泉や日本酒などの本県の魅力を分かり易く伝えるためのツールとして、「棚田みらいちゃん」とのコラボキャラクター「棚田県知事　棚田ひでよ」を考案。
○ 棚田地域活性化に資する取組に利用し、親しまれるキャラクターとして位置付けて、県の事業等での使用を想定。
○ 「棚田県知事　棚田ひでよ」、「棚田みらいちゃん」、「棚田県にいがた」の商標登録を申請中。

棚田県にいがた

「棚田県知事　棚田ひでよ」
・「棚田みらいちゃん」の親戚のおじさんで「棚田県」の知事として、「棚田みらいちゃん」とコラボで『棚田県』のＰＲ活動を行っている。

「棚田みらいちゃん」
・　蛙の格好をして各地の棚田で活動中。おてんばで、おませな小学３年生（９歳）という設定だが、本気モードになると「ガチみらいちゃん」に変身（20歳）する。

今後の展開　～「にいがた棚田フォーラム」の立ち上げ～

○ 県庁内関係部局のほか、大学や企業などの多様な主体により構成し、棚田地域の振興等に向けた課題の整理や県内外の優良事例・先進的な取組等の研究活動を行う「にいがた棚田フォーラム」を本年秋ごろまでに立ち上げ。
○ 「にいがた棚田フォーラム」において開催する会議における意見等を踏まえつつ、棚田の保全や地域の活性化、関係人口の拡大に向け、部局横断的に検討し、取組を展開。

令和７年度を「**にいがた棚田みらい元年**」とし、未来に向かって次の取組をスタート

<ワーキング分科会>

◆研究・検討テーマ毎に分科会を設置
◆テーマに応じて、フォーラムメンバー＋事務局で構成

分科会テーマ案①
付加価値向上

分科会テーマ案②
企業・大学連携

分科会テーマ案③
観光コンテンツ

検討した取組について、その有効性の検証や、他地域への横展開を行う

【事務局】新潟県棚田地域振興連絡会議
（県庁内：関係部局で構成）

フォーラムの立ち上げに向けて～先進地視察～

○ 庁内関係部局および参画予定企業からワーキングメンバーを選出し、先進地視察を開催。
○ 十日町市池谷・入山地区におけるNPO法人の取組や十日町市蒲生地区の地域おこし協力隊員の取組に関する意見交換を行い、各専門分野の立場から棚田地域の振興に関する課題や可能性について検討。

NPO法人地域おこし　代表理事　多田 朋孔 氏

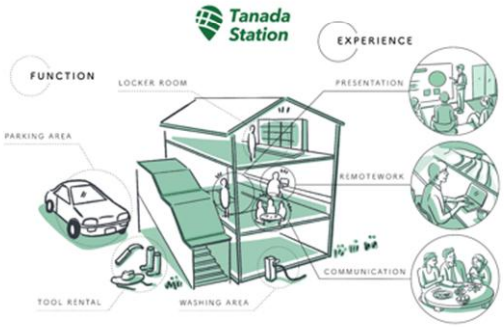
- 2004年の中越大震災のボランティア活動を契機として、池谷・入山集落へ移住
- NPO法人として農業参入を行い、「山清水米」の独自ブランドで販売
- 池谷・入山集落での経験を活かし、他地域における地域おこしの支援も実施

池谷・入山の棚田（NPO法人地域おこしHPより）

代表理事多田氏による事例紹介

十日町市地域おこし協力隊　星 裕方 氏

- 「棚田ステーション」を拠点とした、棚田の「通い農」と「企業研修」の聖地化プロジェクト



「棚田ステーション」クラウドファンディングHPより

地域おこし協力隊星氏による事例紹介

蒲生の棚田を視察

フォーラムの立ち上げに向けて～意見交換～

令和７年度 新潟県棚田地域振興連絡会議

第3回 ワーキング分科会

日時：2025 年 9 月 19 日（金） 14：00 ～ 16：45
会場：新潟県自治会館　別館　第1研修室
〈ファシリテーター〉 NPO 法人 まちづくり学校　大滝　聡、結城由羽

【本日の達成目標】 ・分野連携を行うために、メンバー間の横のつながりをつくる
・それぞれが持つ専門分野の見地を情報として共有する

本日のプログラム

時間	内容
14：00	オープニング ワークショップの趣旨説明、本日のファシリテーターとプログラムの紹介
14：10	ゆるやかな関係づくり　※バースデイサークル：自己紹介ゲーム 誕生日ごとに全員が輪をつくり、一人ずつ自己紹介をする
14：30	ワールドカフェ形式による意見交換

※時間や内容はあくまで目安です。

〈テーブルテーマ〉
テーブル 1：棚田地域農産物等の付加価値向上・販売拡大戦略
テーブル 2：企業・大学と連携した棚田の利活用
テーブル 3：棚田地域のコンテンツを取り入れた観光モデルツアーの可能性

①手順やルールの説明、各テーブルのホストを決める（5 分）
②第 1 ラウンド（20 分）
話し合いのテーマ：テーブルテーマに沿って棚田を生かすアイディアを出し合う
③メンバーのシャッフル　※テーブルホスト以外
④第 2 ラウンド（20 分）
話し合いのテーマ：有効で実現可能なアイディアの絞り込み
⑤メンバーのシャッフル　※テーブルホスト以外
⑥第 3 ラウンド（20 分）
話し合いのテーマ：絞り込んだアイディアを実現させるために必要なこと
⑦グループ発表（各グループの持ち時間 3 分以内）
⑧成果の確認と全体共有（10 分）

16：40	クロージング ふりかえりシートの記入、連絡事項、他
16：45	終了

にいがた棚田みらい創造会議

○ 「つなぐ棚田遺産」の登録数が県内で最も多い十日町市を会場に、十日町の棚田とゆかりのある方々を迎えて、「にいがた棚田フォーラム」立ち上げ宣言や今年度の取組成果を発表。
○ ディスカッションでは、それぞれの棚田での取組成果や課題、交流人口の拡大や地域活性化につなげていくための提案を議論。
○ 150名を超える多くの方々が来場し、地域農業と関わりのあるFC越後妻有監督・選手との交流コーナーや伝統芸能の披露など、「にいがた棚田みらい元年」の総括として、会場内は大いに賑わった。

中条笹山縄文太鼓クラブによる和太鼓演奏

十日町の棚田にゆかりのある方々によるディスカッション

５協議会による棚田米等の販売

「田毎の月」で夜を明かす「よいやさ」の踊りで一体感

「にいがた棚田フォーラム」立ち上げ宣言　～今後の展開～

○ 県では「にいがた棚田みらい元年」の取組を踏まえ、「にいがた棚田みらい創造会議」において、企業や大学などの多様な主体が参画する**「にいがた棚田フォーラム」**の立ち上げを宣言。
○ 今後も「にいがた棚田フォーラム」において検討したアイデアについて、各種コンテンツの有効性を検証しながら、**棚田の保全や地域の活性化、関係人口の拡大**に向けて引き続き取組を展開。

●「にいがた棚田フォーラム」企業・団体及び関係市町・協議会参画状況
（R7.11月時点）

「にいがた棚田フォーラム」立ち上げ宣言

会場内の様子「にいがた棚田みらい創造会議」

	にいがた棚田フォーラム参画企業等 【21社・団体、14市協議会】	オブザーバー
産	尾畑酒造㈱、加賀の井酒造㈱、㈱亀紺屋、佐渡汽船㈱、佐渡測量㈱、㈱サンワコン、㈱相互技術、TOPPANエッジ㈱、㈱ナルサワコンサルタント、日本航空㈱、マルハニチロ㈱、㈱水倉組、明和工業㈱、㈱Ｕ・ＳＴＹＬＥ	・農林水産省（棚田コンシェルジュ等） ・関係市町村 ・棚田みらい応援団参加企業等に呼びかけ ・棚田オフィシャルサポーター企業に呼びかけ
官	・農林水産省、県内市町村、地域おこし協力隊（三条市、小千谷市、十日町市、南魚沼市）	
学	新潟産業大学、新潟食料農業大学、えびがせ荘	
金	㈱第四北越銀行、㈱大光銀行、三井住友海上エイジェンシー・サービス㈱	
労	・指定棚田地域協議会（佐渡、三条、糸魚川、村上、池谷・入山、枯木又、Mizusawa Rice Terrace　Conference、まつだい、トロノキ、松之山）	
言	NPO法人　Lily＆Marry’s	

棚田地域の課題解決に向けた今後の展開

○ 「ワーキング分科会」による、棚田を活かすテーマ別アイデアの中から、実現可能なアイデアの絞り込みを行い、みらい創造会議で得られた議論も踏まえ、**次年度以降の施策への反映を検討。**

にいがた棚田フォーラム「ワーキング分科会」（９月19日開催）での検討結果　※一部抜粋

テーマ１
棚田地域農産物等の付加価値向上・販売拡大戦略

〇生産された棚田景観の写真を載せたパッケージ化
〇耕作者の思い、食味をどう出したかなどのストーリーをつけた販売
ー棚田みらいちゃんを棚田米とともにアピールしたい
〇展示会などへ棚田米を出展したい
〇機内食等で取り扱うことはできないか

テーマ２
企業・大学と連携した棚田の利活用

〇学校×棚田の連携
〇受け入れ先の負担にならない受入れ方という視点
〇棚田のインバウンドツアーや外国人富裕層向けの棚田ファンド
〇企業交流会へのフィールド提供、大学へのフィールド提供

テーマ３
棚田地域のコンテンツを取り入れた観光モデルツアーの可能性

〇ターゲットは50～60代、若者よりも大人
〇「そのままを活かした棚田の体験」、田植え、稲刈り、 生産物のプレゼント。棚田を通じた運動体験
〇棚田米の自炊体験、何かをもらえる得する体験
〇50代の人でもなかなか経験はなく、インバウンドにはどれもが新鮮

「にいがた棚田みらい創造会議」（11月22日）における企業等による棚田との関わり方での意見

○ 経済合理性の低さや担い手不足などの問題により存続の危機に瀕している棚田で、「株主優待制度」として棚田米を活用した日本酒などを進呈の他、田植えや稲刈り体験などの棚田の保全活動を株主優待品として提供。
○ 継続的に棚田を保全していくには、**企業のCSR活動としてだけでなく、ビジネスの視点も持つ必要がある**との意見。

○ 棚田でのボランティア体験から始まって、参加者の中には「ガッツリやりたい」という方もいる。ボランティアとしてではなく、棚田を保全管理したい方には、対価を払って本当に手伝ってほしい作業を手伝ってもらう。
○ 外からの人材の受け入れをイベントで終わらせるのではなく、**来訪者がステップアップして棚田地域に継続的に携わっていく仕組みを作ること**が、**県が棚田施策として取り組む際に重要。**

令和８年度事業

「棚田県」新潟 日本一の魅力満喫事業

農地部公式キャラクター
棚田みらいちゃん

事業概要

令和７年度に『棚田日本一』の魅力をＰＲし棚田地域の交流人口拡大を通じた活性化を図るため、「にいがた棚田フォーラム」を創設。検討結果から、令和８年度は農地部キーコンテンツである「棚田みらいちゃん」を軸に「みらいちゃんの棚田教室」を実施。棚田フォーラムメンバー企業と連携しガチ棚の運動効果を測る健康にいがた「棚田ダイエットプロジェクト」に取組む。これに加え、外国人向けモニター受け入れを部局連携で行う。

背　景

- 新潟県は棚田面積の広さや「つなぐ棚田遺産」の認定数が全国１位の『**棚田日本一**』の県
- 棚田には**美しい景観**があることに加え、美しさの背景に**歴史・文化などのストーリー**もあり、**新潟の魅力あるコンテンツ**の一つ
- 令和７年度に棚田地域振興法が延長改正され、棚田の維持保全や地域の持続的発展のため、**未来に向けて**総力を挙げて**棚田地域の振興**を図りたい

事業内容

①「にいがた棚田フォーラム」の活動

・ **にいがた棚田みらい創造会議2026**
（秋頃、上越市内で開催予定）
<未来に向けた活動方針を議論>
令和８年度を「**にいがた棚田みらい元年ネクスト**」とし
さらなる未来へ向けて次の取組をスタート

【参画企業・大学・団体】
㈱第四北越銀行、㈱大光銀行、㈱ナルサワコンサルタント
㈱水倉組、㈱U・STYLE、㈱日本航空、㈱相互技術、
佐渡測量㈱、㈱サンワコン、佐渡汽船㈱、㈱亀紺屋
三井住友海上エイジェンシー・サービス㈱、TOPPANエッジ㈱
マルハニチロ㈱、明和工業㈱、新潟食料農業大学、新潟産業大学
えびがせ荘、NPO法人　Lily&Marry's、尾畑酒造㈱
【市町村・棚田協議会】
三条市、三条市棚田地域振興協議会、佐渡棚田協議会、小千谷市、
十日町市、糸魚川市指定棚田地域農業振興協議会、南魚沼市、村上市指定棚田地域振興協議会、
池谷・入山指定棚田地域振興協議会、枯木又指定棚田地域振興協議会、Mizusawa Rice Terrace　Conference、
まつだい地域棚田振興協議会、トロノキ協議会、松之山指定棚田地域振興協議会

【事務局】新潟県棚田地域振興連絡会議（県庁内：関係部局で構成）

② みらいちゃんの棚田教室
・佐渡市の小学生を対象に棚田に関する授業を実施。

③ガチ棚2026
・星峠＆新たな棚田に今年もガチ棚の季節がやってきた

④健康立県にいがた「棚田ダイエットプロジェクト」
・新潟医療福祉大等と連携しガチ棚のエクササイズ効果を検証。付加価値を高める

⑤「棚田県にいがたフォトコンテスト」2026
・棚田の魅力を広く伝え、機運醸成を図るフォトコンテストを引き続き開催。

優先課題枠（交流促進）

⑥TANADAで世界は１つ「棚田インターナショナル」
外国人がコンテンツとしての棚田をどのように感じるのか？
棚田の保全活動体験を通じてインバウンド受入可能性等を探る

棚田に会いに行こう

Let's go to the rice terraces

棚田みらい応援団　活動期間：令和7年4月～11月

棚田みらい応援団

Rural
Development
Division

新潟県十日町市「星峠の棚田」August 2024

みんなで棚田を守ろう

参加申し込み
エントリーシート
→ 地区を選ぶ → 現地集合 → 活動へ参加

棚田みらい応援団は企業・大学・団体等が棚田の保全活動を行う取組です

活動エリア

佐渡エリア
歌見の棚田　5月11日（日）田植え
10月5日（日）稲刈り

糸魚川エリア
東塚棚田　5月17日（土）田植え
6月28日（土）草刈り
江ざらい
9月13日（土）稲刈り

上越エリア
棚広棚田　4月13日（日）苗箱伏せ

十日町エリア
三ク山棚田　6月7日（土）環境整備
10月4日（土）収穫作業他
池谷・入山棚田　6月14日（土）草取り
6月21日（土）草取り
6月28日（土）草取り
水沢棚田　6月7日（土）田植え
9月20日（土）稲刈り

柏崎エリア
荻ノ島棚田　6月15日（日）環境整備
11月9日（日）環境整備

長岡エリア
一之貝棚田　4月26日（土）環境整備
7月26日（土）環境整備

令和7年度棚田みらい応援団の協力企業・団体

加賀の井酒造(株)、（株）亀紺屋、
佐渡汽船(株)、佐渡測量(株)、
サンワコン新潟支店、相互技術(株)、
(株)第四北越銀行
東京電力ホールディングス(株)新潟本社
(株)ドコモCS
(株)ドコモビジネスソリューションズ
TOPPANエッジ（株）
(株)ナカノアイシステム
(株)ナルサワコンサルタント
新潟空港ビルディング(株)
新潟産業大学、新潟食料農業大学、
新潟大学あらづくり応援隊
日本航空(株)新潟支店
東日本旅客鉄道(株)新潟支店、
藤木鉄工(株)、マルハニチロ（株）
三井住友海上エージェンシーサービス(株)
(株)水倉組、明和工業（株）
えびがせ荘、 ECHIGO棚田サポーター

みんな待ってるよ

棚田みらいちゃん

参加申し込み

にいがた棚田ネット

右の二次元バーコードから、「棚田みらい応援団」エントリーシートにアクセスし、
ご記入の上、お申込みください

にいがた棚田ネット

お問い合わせ

新潟県農地部農村環境課　〒950-8570 新潟市中央区新光町４－１
TEL:025-280-5367　メール：ngt070050@pref.niigata.lg.jp

※登録いただいた団体には活動案内をメールでお送りします。（登録料・会費は不要です）